

コンクリート用の透明な表面被覆工法

コンクリート素地の視認性が確保される表面被覆工法

国立研究開発法人 土木研究所
先端材料資源研究センター



○コンクリート構造物の維持管理:劣化と防食/補修

- 維持管理時代にむけたコンクリート構造物の補修技術
- 5年毎点検と直接近接目視の義務化

- コンクリート構造物の劣化損傷
 - 塩害、ASR、凍害、中性化、化学物質、、、

- 対策の基本
 - 鉄筋の腐食抑制
 - 劣化促進物質の遮蔽
 - 密実なコンクリート
 - 表面被覆、注入/充填

- 新設、補修



○耐久性向上・補修対策としての表面被覆工とその課題

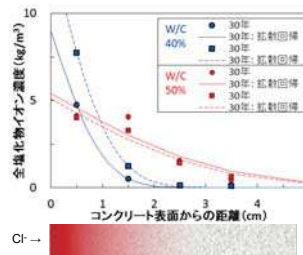
- 目的と性能
 - 劣化促進物質の遮蔽
 - (剥落防止)
 - 景観、美粧



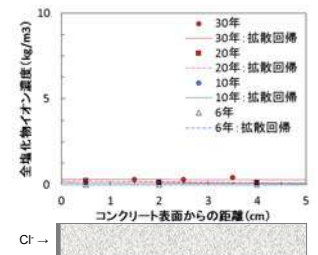
- メリット
 - 劣化促進物質を比較的容易に遮蔽できる
 - 施工後の外観がきれいになる
- 課題
 - コンクリートの目視点検が困難になる
 - 内部の塩や水を封じ込めてしまう
 - ひび割れの進展や滲出物の発見が遅れる

○表面被覆による耐久性向上

- 30年間の海洋飛沫帯暴露-駿河海岸
- 塩分の浸透



無塗装コンクリートへの塩分浸透



表面被覆(塗装)をすると
→ 塩分浸透は長期間抑制できる

○表面被覆にからむコンクリート構造物の不具合

表面被覆内部でのコンクリート劣化の進行

内在塩や下地不良による早期再劣化

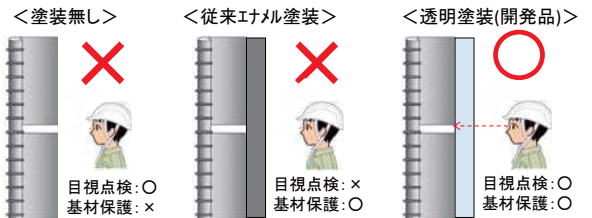
- 被覆内コンクリート損傷の解剖調査例



表面被覆工および断面修復工による補修を施したコンクリート構造物の再劣化: 熊谷橋祐, 橋底浩樹, 宮田敬士, 松々未織, 西崎利, コンクリート構造物の補修・補強, アップグレード論文報告集, 日本材料学会, 2014

コンクリート構造物の補修に関する研究, PC構造物の戦略的メンテナンスに向けて: 国立研究開発法人土木研究所 先端材料資源研究センター, 第43回PC技術講習会, 2015

○透明な塗膜を実現し目視点検を可能にする



○表面保護対策の種類と特徴

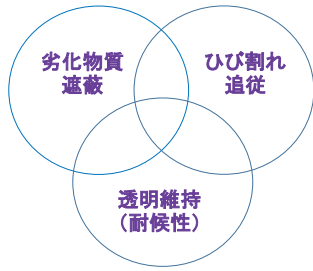
	透明表面被覆 (本工法)	従来型(有色) 表面被覆	表面含浸 (シラン・けい酸)	はく離防止 透明	その他(ひび割れ 検知等)
劣化防止性能(特に ひび割れある場合)	○	○	△	○	△
剥落防止	△	△	×	○	×
施工のし易さ	優	良	優	可	
点検・維持管理	優	可	優	優	優
コスト	良	良	優	可	

(○:機能を有する △:条件によっては有効 ×:機能を有さない)

○透明なコンクリート保護材料の要素技術

～開発の視点～

3つのキーとなる要素を塗膜に組み込む必要がある

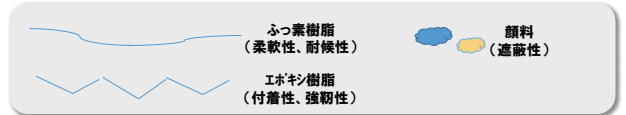
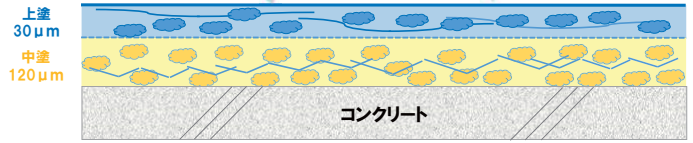


- 腐食促進物質を遮蔽する樹脂および顔料の選定
- コンクリートに発生するひび割れに対する追従性を有する樹脂選定
- 長期にわたり透明を維持する耐候性のよい樹脂の選定

本工法の透明な塗膜は、相反する事象に対しても最適なバランスをとり、必要とする膜性能を確立。

従来型有色被覆の遮蔽効果

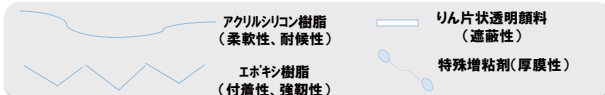
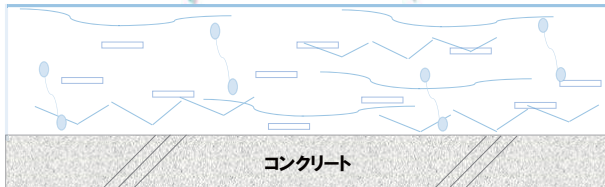
二酸化炭素、水分、塩分



透明な本工法被覆の材料新技術

二酸化炭素、水分、塩分

クリアー
上塗
750µm



○表面被覆材の基本性能

- コンクリート構造物の補修対策施工マニュアル(案)
- 表面被覆・含浸工法編 が求める品質を満足

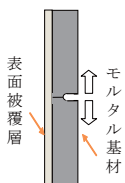
●表面被覆材の基本性能の例 表面被覆材に求める品質*等の照査

要求性能	照査項目	本工法	
塩化物イオン遮蔽性	塩化物イオン透過量	0.34 × 10 ⁻¹ mg/cm ² ・日以下	
酸素遮蔽性	酸素透過量	4.7 × 10 ⁻¹ mg/cm ² ・日	
水蒸気遮蔽性	透湿量	0.4 mg/cm ² ・日	
二酸化炭素遮蔽性	中性化深さ	0.0 mm	
ひび割れ追従性	塗膜の伸び	標準養生後(20℃)	0.65 mm
		標準養生後(-20℃)	0.62 mm
		促進耐候性後	0.56 mm
付着性	付着強さ	標準養生後	1.57 N/mm ²
		促進耐候性試験後	2.96 N/mm ²
		温冷繰り返し試験後	1.77 N/mm ²
		耐アルカリ性試験後	1.68 N/mm ²

*土木研究所:コンクリート構造物の補修対策施工マニュアル(案) 表面被覆・含浸工法編

○ひび割れ追従性

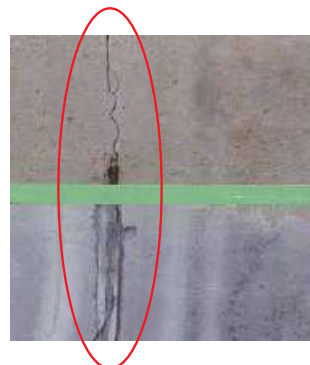
試験方法: ひび割れの入ったモルタル板に、本工法の材料を塗装し、塗膜を形成。28日間、23℃で乾燥させた塗膜を標準状態とし、標準状態の膜を23℃でひび割れ追従性を試験(常温試験)、標準状態の膜を-20℃で試験(低温試験)、標準状態の膜にキセノンランプを700時間照射後23℃で試験(促進耐候性試験)の3水準を実施した。(JSCE-K 532-2010)に拠る)



条件	のび(最大荷重時)
常温試験	0.65mm
低温試験	0.62mm
促進耐候性試験	0.56mm

いずれの条件でも0.4mm以上の伸びがあり、コンクリート躯体の保護に有効塗膜は約1mmで破断

○視認性: 実際のコンクリート面での塗装状態



塗装面

ひび割れがあるところに塗装して塗膜を形成。塗装面においてもひび割れが目視で十分わかる。(施工前よりも視認性が向上)

無塗装面



•視認性の定量的評価方法
→ 塗膜の隠れい度試験を応用した試験基準の提案

○視認性：ひび割れの可視性

試験方法：ひび割れの入ったモルタル板に、本工法の材料を塗装し、塗膜を形成。
7日間室温(23℃)で乾燥させた塗膜を、引っ張り試験機で両端を引っ張り、その時の塗膜状態の変化を観察した。



変位:0.0mm

引張開始前
ひびを目視確認が可能



変位:0.7mm

引張(変位)0.7mm時点
ひびが白く変化



変位:1.0mm

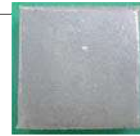
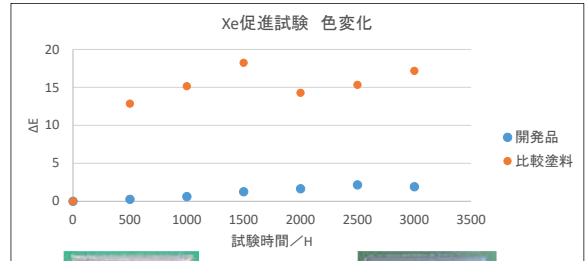
引張(変位)1.0mm時点
塗膜が破断

ひび割れを十分目視で確認することができ、クラック追従性があり、透明を維持する樹脂を使用することの効果が認められる。
ひび割れが拡大し、0.7mm(変位)になると塗膜の外観異常(白化)が生じ、ひび割れの点検観察を容易にする効果があります。

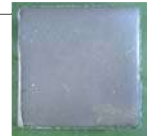
○視認性：耐候性

促進試験の他、屋外暴露を実施中

試験方法：7×7 ISOモルタルに各仕様を塗装し、23℃50%RHで28日養生したものを、JIS K 5600-7-7(キセノンランプ法)にて促進試験後、2000Hまで500H刻みで色相を測定した。



初期



促進耐候性試験2000H後

⇒促進耐候性試験後も大きな色変化がなく、視認性を維持できている。

○塗装仕様と施工工程

施工工程

工程	製品名(一般名称)	使用量 (kg/m ²)	目標膜厚 (μm)	施工方法	塗装期間 (23℃)
基底調整	サンダークレン・シナー拭き・ブラシやエアブロー、その他規定された工法により、段差修正やレイタンス・塵分・油分などの異物や油分を除去し、施工に適した状態にする。また、欠損部、鉄筋露出部や漏水がある場合は別途鉄筋防錆、埋め戻し等の密着準備や止水、漏水処理を事前に実施する。				
プライマー	タフガードクリアープライマー(アクリル樹脂速乾プライマー)	0.12~	-	はけローラー	30分~7日以内
パテ	タフガードクリアーパテ(柔軟形特殊クリアーパテ)	0.36	-	コテヘラ	16時間から5日以内
上塗り	タフガードクリアー上塗(柔軟形特殊クリアー塗料)	0.92	750	コテヘラ	-

※AがけおよびBの使用量は、コンクリートの基底の状態によって大幅に変動します。 ※いずれの工程も順着にて塗装ください。



30分以上 1日以上

2日間で塗装が完了します。

従来工法では4日間かかっていましたが、工程短縮が可能となります。

○道路橋下部工での施工例

◎2015年 中国地区



○道路橋下部工での施工例

◎施工箇所の1年経過後の状態



供用中の異常(付着不良や端部めくれ等)はみられていない

○適用事例

2017年 関東地区



○問い合わせ先

国立研究開発法人 土木研究所
先端材料資源研究センター(IIMaRRC)先端材料・高度化担当
TEL 029-879-6763
〒305-8516 茨城県つくば市大宇南原1番地6
URL <http://www.pwri.go.jp/>

日本ペイント株式会社
顧客営業部 第二営業グループ
〒140-8677 東京都品川区南品川4-7-16 TEL:03-3740-1220
技術本部 鉄骨塗料技術部 設計グループ
〒140-8675 東京都品川区南品川4-1-15 TEL:03-3740-1141
URL <https://www.nipponpaint.co.jp/>